

平成 28 年度第 2 回教育課程編成委員会議事録

日 時：平成 28 年 10 月 18 日(火)14:00～16:00

場 所：名古屋芸術大学保育専門学校 本館 2 階会議室

出席者：小川英彦(愛知教育大学教授)、鎌倉博(クリエ幼稚園長)、
高田道雄(マハヤナ幼稚園長)、武石協子(たきこ幼児園長)、
藤澤卓美(本校校長)、畔柳守男(本校副校長)

オブザーバー参加者：加藤佳美(本校教員)

欠席者：川杉省三(愛知県私立幼稚園連盟理事)、木村節治(本校保育科長)、
浦野忍(本校教員)

議長…藤澤卓美校長 記録…畔柳守男

1. 開会のあいさつ…校長

現時点での入学希望者が、別紙のように入学定員に近づきつつある。昨年に比べ受験者が多く、ここ数年は受験者が右上がりである。その理由としては HP の充実とパンフを見やすくしたことや、指定校入学に配慮したことが考えられる。

2. 議事録確認

- ・第 1 回教育課程編成委員会議事録

3. 協議

(1) 「本校の教育についての全体の感想」「改善に向けての提案」

教育課程編成委員・学校関係者評価委員、各委員からの意見紹介

① 「本校の教育についての全体の感想」についての補足説明。

【保育科・保育科第二部共通項目】

- ・名芸大との連携体制を強化していく必要がある。
- ・講義に慣れない学生がいるが、理論や知識は自ら考える場合に必要とされるものであり、なおざりにはできないものである。演習に力を入れることで、学生はそれぞれの良さを発揮できるようになり、主体的に取り組むようになる。
- ・保育とは生活そのものである。演習を通して、子どもの環境の設定についての重要性を学んで欲しい。

② 「改善に向けての提案」の補足説明。

【保育科第二部指摘事項】

- ・歴史のある学校であり、長年の実績が評価されている。授業料を低く抑え、第二部を持ち、社会人にも広く門戸が開放されている。社会的な意義が高い。

(2) 「本校の目指すべき卒業時の生徒像」について

…教員(専任・非常勤)、たきこ幼児園職員、滝子幼稚園職員の意見…資料 3

【保育科・保育科第二部共通事項】

- ・基本的な生活、環境を整えること等は、家庭での生活が出るものである(掃除の際、部屋を丸く掃く、掃除機のコードが届く範囲しかやらない等)。これらは本来、親が教え身につけさせることであるが、気が回らない、応用が利かない学生がいる。学校の教育の中で、少しでも経験させることができないか。
- ・学内実践検定に興味がある。愛私幼が統一採用試験を来年度から中止するが、それは実践力に重きを置いているのかも知れない。園児との対話力が大切ではないか。子どもの願いを読み取る力を育成できたら、自ら動く子どもにつながるのではないか。
- ・園の抱えるニーズへの対応に焦点を置き、発達障がい児の受け入れ対応や、もの作りに力を入れていく等、「この学校はここに力を入れてやってる」といった目玉が欲しい。
- ・障害児保育については、診断や症状の理解、心理学的なアプローチにこだわらず、健常児の中で障害児を保育するという、日々の保育実践の中で保育力を高めていくことが望まれる。

【保育科第二部指摘事項】

- ・学生をアルバイトで雇っているが、高校新卒者は仕事ができるようになるのに夏までかかる。大卒者や社会人は、吸収・理解が速く、短期間で戦力になるため、リーダーにしている。

【保育科指摘事項】

- ・子どもの気持ち(内面)が分かる保育者の育成するために、滝子幼稚園、たきこ幼児園を活かしてほしい。1クラス 25 人の少人数教育を行っているので、子どもと日々の生活を共にするといったことが出来るのではないか。

(3)「本校の価値」について

…教員(専任・非常勤)、たきこ幼児園職員、滝子幼稚園職員の意見

【保育科・保育科第二部共通事項】

- ・本園では、大学の先生等の専門家に直接子どもの指導をお願いし、その指導を園の教員が見て学び保育力を高めるようにしている。
- ・本園では、外部講師や単発的なイベントは避けている。劇団と保育者とでは役割が違うため、例えば人形劇を保育者が行うことによって、子どもの遊びに発展性、継続性が生まれる。
- ・本園では、子どもと対話をしながら、今この子に何が必要かを考え、場合によっては子どもに要求することもある。そうすると子どもは努力するようになる。今の子どもの姿を捉えながら対話し、子どもの力を伸ばすようにしている。
- ・隣接する園で保育現場を見ることができると留まるのではなく、子どもが歌や体育等を行っているところへ行き、現場で直接体験することが重要ではないか。

- ・名芸大では、実習とは別に1年生に自由遊びの時に一緒に遊ぶようにしている。また、幼児向けのイベントを考えて、授業の中で発表させている。名芸大では小学校教諭免許も取得できるので、本校から名芸大に編入学した学生が「小学校と幼小の関係を深く学べる」と言っていた。向学心のある学生にとっては編入という形での連携は意義があり、進学を勧めると良い。
- ・編入も「学生を活かすことが出来る」という意義がある。大学の教員と本校の教員がつながり協同研究を進めることができると良い。

(4)本校の教育課程について

…今後、力を注いでいくべき教科と教科全体の構成について…資料4・5・6

(5)本校の教育方法について

…今後、本校が行う授業方法や、授業以外での教育方法について

【保育科・保育科第二部共通項目】

- ・教員養成の教育課程の変更に伴い、抜本的に本校の教育課程を見直す必要がある。
- ・音・美・体や、特別支援、幼児の理解等で、半期のものを通年にする、集中講義を行う等、学校の特色を出してはどうか。また、専門の科目に力を入れるべきでは。
- ・それぞれの授業の中身の充実がまず必要である。
- ・アレルギーへの対応等、知っていなければ命に関わるような知識について不足がないようにしてもらいたい。牛乳がそばにあるだけで、反応が起きる子もいる。
- ・子どもたちは様々であり、また、変化していく。それぞれの子どもに対して対応力を身に付けることが時代に合った保育の力である。
- ・園のニーズをくみ取り、教育課程を編成する。